1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3578100376		
法人名	社会福祉法人 寿幸会		
事業所名	グループホーム ほたるの里		
所在地	〒759-3411 山口県萩市大字須佐1378-1 Tel 08387-6-3168		
自己評価作成日	令和06年07月10日	評価結果市町受理日	令和06年09月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/35/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	令和06年08月28日	評価結果確定日	令和06年09月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①食事は職員が毎食調理しており、献立はご利用者に意見を聞いたり、季節感を感じれるようなメニュー作りを心掛けている。また食材の購入も地域のスーパーに毎日買い物に行き、道の駅で地元の新鮮な魚や野菜を購入し、豚肉は月1回地元のむつみ豚を養豚場へ買い出しに行っています。
 ②毎日ラジオ体操を行い、ストレッチ運動は皆さんが楽しく体を動かされるよう工夫して行い、身体機能の低下防止に努めています。また、気候の良い時は施設周辺を散歩したり、玄関前で日光浴を兼ねてレクリエーション活動を行っています。
 ③ドライブに出掛ける事を楽しみにされているので、季節の花々や海を見たり、自宅周辺や馴染みの場所にも出掛けて、気分転換を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、高齢者生活支援ハウス、居宅介護支援事業所、萩市在宅介護支援センターを併設した広大な敷地内の一角にある定員9名のアットホームな雰囲気ของกลุ่มホームである。就業環境の整備、職員育成に力を入れて取り組み、職員のほとんどが正職で介護福祉士であり、意欲を持って働くことのできる環境の中、スキルの高い職員が定着している。法人の管理栄養士のチェックを受けた献立の下、地域のスーパーや道の駅で新鮮な食材を購入し、豚肉は地元のむつみ豚を養豚場へ買い出しに行き、自慢の畑で収穫した野菜を取り入れながら、職員手作りの料理を提供している。家事活動や季節のおやつ作り、畑の水やりに収穫作業の他にも、併設特養で行われる仏教法話やボランティアの来訪「良顔の会」等、温かな雰囲気の中、利用者の思いを大切に支援に取り組んでいる「グループホーム ほたるの里」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた法人の理念を事業所内の玄関に掲示し、また職員の名札にも掲載、常時携帯し、月1回の法人の会議で復唱している。法人の理念をもとに、グループホームの方針を作成し、食堂に掲示している。	法人理念を玄関の見やすい場所に掲示し、職員の名札の裏にも理念を記載して携帯している。法人の会議で月1回唱和する等して理念の共有に努めている。また、毎年新年度のグループホーム会議で独自の目標を作成し、理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域の行事に積極的に参加していたが、コロナ禍以降地域の行事も中止になり交流の場が途絶えた。昨年5類に変更され、少しずつ地域の行事が再開され始めたが、感染防止の為積極的に参加する事は難しい状態ですが、状況を見ながら参加を検討している。地域の方が慰問で来られる時は、併設の特養に行き、一緒に参加し交流を図っている。	新型コロナ5類移行に伴い、コロナ状況を判断しながら地域の行事や活動への参加を検討している。併設事業所で行われる「仏教法話」や「良顔の会」に利用者と職員が参加して交流している。日常的に近隣のスーパーで買い物し、週1回は道の駅で食材を調達し、養豚場で豚肉を購入する等、地域の一員としての繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度は実施していない。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員に自己評価の意義を説明し、項目ごとに担当を決めて記入し、各職員の意見を聞き、管理者がまとめている。目標達成計画は評価機関から頂いた意見をもとに、毎月行うグループホーム会議で行う研修に、各自が自分で研修内容を考えて行う、自己課題の研修も取り入れている。	管理者は職員に、外部評価の意義や目的を説明して自己評価表を配り、職員が記載したものを管理者がまとめている。各自が取り組む事で、どういところに気をつけなさいといけなさいといった事が明確にされている。外部評価結果については職員間で話し合い、具体的な改善に向けて取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度はお試して行政の方の協力を得て、自己評価の中の一部を運営推進会議を活用した外部評価を行い、運営推進委員の方に評価をして頂き貴重な意見を頂き、サービスの向上に努めている。	利用者代表、家族代表、地域住民代表、東部包括支援係の参加を得て2ヶ月毎に運営推進会議を開催している。利用者状況や行事報告、研修報告等を行い、参加委員から意見や質問、情報提供を受けて話し合い、出された意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	東部包括支援センターの担当者とは、運営推進会議の時に意見を聞いたり、入所を希望されている方の情報を頂いている。社会福祉協議会の方とは、地域権利擁護事業を活用し、金銭管理の支援を継続して行って貰っている。	社会福祉協議会と連携して日常生活支援事業に取り組み、利用者が安心してホームで暮らせるよう支援している。運営推進会議に東部包括支援センター職員が出席し、ホームの現状を理解してもらい、アドバイスや情報提供を受け、協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、法人内で行われる研修に参加している。職員全体に身体拘束廃止について周知徹底し、スピーチロックについても法人内の研修で再確認を行っている。日中は施錠せず自由に入出入り出来る様になっているが、夜間に関しては防犯面や安全面から、玄関・非常口・洗濯室入り口・各居室の窓(戸)を施錠している。	毎月法人内で行われる身体拘束予防検討委員会に参加し、身体拘束が利用者に及ぼす弊害について職員一人ひとりが理解し、身体拘束をしない、させない介護サービスに取り組んでいる。特に言葉遣いや対応については、その都度職員間で注意し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で開催される研修に参加し学んでいる。			
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で開催される研修に参加し学んでいる。			
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時やショートステイ利用時には契約書や重要事項説明書に記載されている内容を説明し、疑問点についても説明している。また施設内(居室・食堂・浴室・トイレ他)を見学して頂き詳しく説明している。			
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口や担当者、外部機関第三者委員会を明示、苦情処理の手続きを掲示している。ご家族様から意見は、来苑時や電話等で聞き職員に伝えている。	内外の苦情相談窓口と担当者を掲示している。職員は日々の関わりの中から利用者の思いや意向を聞き取り、家族については、面会や電話、家族会、運営推進会議等の機会に意見や要望、心配な事等を聞き取っている。聞き取った情報を職員間で共有し、ホーム運営や介護サービスに反映させている。また、「ほたるの里だより」を毎月送付し、家族の安心に繋げている。		
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃各職員から意見を聞き、必用に応じて業務の検討・見直しを行っている。入所者の方の状態が変わられた時、職員の体制が変わった時など、常に職員の意見を聞き必要に応じて変更・改善している。	グループホーム会議を月1回開催し、その他にも必要な時にはその都度話し合う機会を設けている。話しやすい雰囲気の中で、職員の意見や提案が活発に出され、出来る事からホーム運営や介護サービスに反映させている。管理者は職員とコミュニケーションを取りながら、職員の気づきや気になる事を聞き取り、職員が意欲的に働けるよう配慮している。		
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で実績考課表を作成し、評価に基づいて賞与、昇給等を適切に図り、職員の意欲向上を図っている。資格取得に対しての意識、評価も高い。年2回健康診断や、インフルエンザ予防接種も法人が全額負担し、新型コロナウイルス感染症の予防接種も職員の希望を聞き接種出来るよう配慮されていた。			
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の月1回の会議に参加して、各委員会の研修を受けている。グループホームが担当の月が年6回あり、職員が発表している。また認知症介護実践者研修に1名、認知症介護リーダー研修にも1名参加し、施設内研修では職員全員が協力して取り組むことが出来た。	職員の習熟度や経験に合わせて外部研修や資格取得を奨励し、職員一人ひとりの技術の向上と知識の習得に取り組んでいる。毎月法人で行う各種委員会の研修に、年6回職員が講師を務め、ホームで伝達研修を行い周知を図っている。管理者は職員の特技や能力を把握し、適材適所に役割分担し、職員が生き生きと働ける就労環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の施設「ぬくもり」の運営推進会議にほぼ毎回参加し交流を深め、同業者からの意見を伺い参考にさせて貰っている。またお互いに疑問点が生じた時には電話で相談し合える関係性を築けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にショートステイを利用して、当施設での生活を体験して生活環境や生活の流れを確認してもらっている。またご本人に聞き取りを行い、要望等を生活やケアプランに反映し、安心して生活が送れるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、入所時に当施設の利用規約や生活環境を分かり易く説明し、ご家族様の要望や相談などを聞き取り、良好な関係作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に受けていたサービスを確認し、現在の御本人の状況や環境をふまえ、必要な支援を判断し、ご本人・ご家族と相談しながらサービスの導入、検討を行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の暮らしの中で、職員が一方向的に介護するのではなく、ご利用者自身が施設の生活の一員と思って頂けるように援助を行い、お互いに助け合いながら自立支援に努めている。(洗濯物干し・洗濯物たたみ・簡単なお掃除・野菜の下ごしらえ・テーブル拭き・お膳拭き・畑や花壇の水巻き等)		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回発行するほたる便りでご本人の様子や生活状況を伝えている。また電話や面会時にご家族とコミュニケーションを取り、ご本人・ご家族の気持ちを共有・反映出来る様に努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ等で馴染みのある場所に出掛けたり、コロナ禍以降少しづつ地域行事にも参加して、顔見知りの方との交流も図っている。また、知人や御姉妹が面会に来られる時は、時間の調整をしたり、知人や親せきの方との文通の支援や、贈り物が届いた時には電話を掛けて話してもらっている。	新型コロナ5類移行に伴い、コロナ状況を判断しながら、家族や関係者の面会制限を緩和して楽しい時間を過ごしてもらい、ホーム入居で馴染みの関係が途切れないように支援している。また、地元のボランティアによる「良顔の会」や「仏教法話」、法人の夏祭りに参加することで、顔見知りの方との交流も継続している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中、レクリエーション活動や体操・行事に参加して、利用者皆さんが楽しめるよう努めている。また利用者同士がお互いに声を掛け合い、協力し合えるような環境作りにも配慮している。 また、気の合う利用者さん同士が寄り添い、お話が出るような環境作りにも配慮している。			
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の状況や所在にもよるが、当法人の施設入所であれば、行事と一緒に参加したり、顔を見たら話しかけたり、ご家族と出会ったときは話をしたり、相談等がされた時は対応するように心掛けている。また退所後も自宅でとれた果物等を提供して下さるご家族も居られ繋がりが継続されている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居される前に、担当ケアマネジャーからの情報提供や聞き取りを参考にしたり、ご本人やご家族へほたるの里での生活の希望を聞いて把握する様に努めている。入所されてからも新しい意向があれば、職員間で共有している。	入居時のアセスメントを参考にして職員が利用者に関わり合い話しかけ、利用者の生活歴や生活環境、友人関係、嗜好、得手、不得手等を聞き取り、職員間で情報を共有して日常介護に生かせるように支援している。自己選択、自己決定が困難な利用者には、家族に相談したり職員間で話し合い、利用者の思いを汲み取る努力をしている。		
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前に、担当ケアマネジャーからの情報提供や聞き取りを参考にしたり、ご本人やご家族からこれまでの生活や暮らし方を聞き取り把握に努めている。具体的に、ご位牌のお世話の希望や、新聞購読の希望の対応、趣味の俳句が継続して行なえる等の支援を行っている。			
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定、食事や水分摂取量、排泄状況、睡眠状況、その他の様子や出来事を記録に残している。個人の把握した状態や体調に合わせて自立支援を念頭に置きながら支援を行っている。今年度は家事を中心に出来る事を取り組んで頂いている。			
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回グループホーム会議を開催しカンファレンスを行っている。サービス計画書を作成する際には、ご本人とご家族へ意向や希望の聞き取りを行っている。また同法人の管理栄養士の意見も取り入れている。ご利用者に変化が生じた際には、プランの検討を行っている。	担当職員は利用者や家族と話し合う機会を設け、意見や要望、心配な事等を聞き取り、毎月のグループホーム会議の中でカンファレンスを行い、利用者本位の介護計画を3ヶ月毎に作成している。利用者の重度化や状態変化に合わせて家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画をその都度作成している。		
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子の記録し、職員間で情報の共有を行い、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の身体状況に合わせ、ご家族と相談しながら、必要な場合には介護用品の自費レンタルや購入の検討・支援を行っている。外出や遠方の医療機関の受診の支援も、ご家族と連携・協力して行っている。また散髪に関しては、2か月に1回福祉美容を行われている方が来苑され利用の支援や、希望の美容室への利用の支援も行っている。また文通をされている方の手紙の投函も行っている。			
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人全体で年1回萩消防本部との心肺蘇生法の講習会と年1回の総合防災訓練を行っている。月2回移動図書館の利用も行っている。買い物は地域のお店を利用している。昨年度地域の祭りに参加する予定だったが、新型コロナウイルスの影響で参加出来ず、会場で食べる予定の昼食はテイクアウトにして貰い、ほたるの里で食べて雰囲気だけは味あわせた。			
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医のすさクリニックへの定期的の介助を行ない、気になる事があれば受診日以外でもクリニック看護に相談している。また、地域の地域内の歯科受診介助も行っている。地域外の医療機関を受診する際には、ご家族の協力を得ている。またご家族遠方で知人の方が同行される時は、必要に応じて職員も同行している。緊急時には主治医に相談し、救急要請行ない、必要に応じて職員も同行している。	入居時に利用者や家族と話し合い主治医を決定している。ホーム近郊の提携医療機関に月2回の受診支援を職員が同行し、結果を家族に報告して利用者の医療情報を共有している。夜間の急変時にも主治医に連絡して支持を受け、救急搬送を行う等24時間利用者の健康管理を行い、安心の医療体制が整っている。		
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段から主治医・クリニック看護と連携し、体調の変化が看られる時は、クリニック看護に報告し、適切な医療を受ける事が出来るよう支援している。緊急時には法人内の看護師へ相談や対応の依頼も行っている。今年度より萩市内の玉木病院と医療連携を行っており、週1回玉木病院の訪問看護師が来られ、利用者の方の健康状態の確認をされている。			
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院になった際には、入院に至るまでの情報提供書を作成し担当医に渡している。入院中は、ご家族や入院先のソーシャルワーカーと連絡を取り情報交換に務めている。退院の際には、御利用者の方の状態を確認し、スムーズな受け入れが出来るよう務めている。			
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当グループホームでは重度化に伴う医療提供や終末期における設備がないため、その際にはご家族に相談の上、適切な医療機関または施設への受け入れが出来るよう、当事業所で可能な限りの支援を行っている。	契約時に、重度化や終末期に向けた方針(看取りはしない)について利用者や家族に説明し、承諾を得ている。利用者の重度化が進むと家族と密に連絡を取りながら主治医も交えて方針を確認し、ぎりぎりまでホームで穏やかに生活出来るように支援している。必要に応じて医療機関や施設への転居も視野に入れながら、利用者が安心して過ごせる場所を一緒に検討している。		
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	緊急時における事故対応は、マニュアルを作成し、月1回の法人の全体会や、グループホーム会議での研修で確認している。ヒヤリハットや事故が発生した際には速やかに対応すると共に、原因の確認や対応策を検討し改善する様に努めている。誤薬が続いた時には、職員間で何度も話し合い、環境の改善を行い、ヒューマンエラーを無くす為、職員間で共有した。	事故予防マニュアルや対応マニュアルを作成し、毎月のグループホーム会議の中で話し合い、事故を未然に防ぐ対応と、発生後の冷静な判断と素早い動きを訓練し、職員が自信をもって行動できる体制を目指している。また、応急手当や初期対応について看護師も交えて話し合い、利用者がホームの中で安全、安心に暮らせる環境整備に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、法人全体やグループホーム内での避難訓練・通報訓練・消火訓練を実施している。また、地域の消防団や駐在所、消防署との連携を図り協力体制を維持している。訓練の際に反省点・改善点があれば見直しを行い、マニュアルに反映させている。	法人全体の訓練がない月にグループホーム独自の訓練を行っている。(毎月)通報装置や消火器の使い方を確認し、非常口や避難経路、避難場所を確保して利用者全員が安全に避難場所で待機できる体制を整えている。また、非常時に備えて消防署や地域の消防団、駐在所と連携を図っている。8月には防災食を食べる訓練も行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の尊厳やプライバシーに配慮し、言葉遣いや対応に気を付けている。職務上知り得た個人情報を守り、広報等への写真や氏名の掲載については、ご家族の了解を得てから掲載し、秘密保持に努めている。また、入浴やトイレ、居室内のポータブルトイレの使用時にも、プライバシーの確保に努めている。	年1回は法人研修で必ず確認している。利用者一人ひとりの人格を尊重しプライバシーを守る介護の在り方を職員間で話し合い、利用者の生活環境や生活習慣に配慮して、言葉遣いや対応に注意した介護の実践に取り組んでいる。また、利用者の個人情報の取り扱いに注意し、職員の守秘義務について管理者が職員に説明し、情報漏洩防止に取り組んでいる。		
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の希望や要望を聞き取りながら、食事やおやつ、飲み物を提供している。またレクリエーションやドライブ等も意見を取り入れている。お盆やお彼岸にはお墓参りに行った。入所に伴い御位牌を持って来られた方には、朝食前にお飯もあげている。			
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人一人の生活のリズムを優先し、朝の体操やレクリエーション活動、ドライブ・行事の参加については、強制はせず、ご本人の思いを第一に考えて過ごされている。			
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は2ヶ月に1回、福祉美容の活動をされている元入所者のご家族の方が来られ、心地良い雰囲気の中、ご利用者の方におしゃれをする喜びを提供されている。また、パーマを希望される方は地域の美容室が利用できるよう支援している。衣類を購入する時も、好きな色やデザインを聞いて、担当の職員が購入している。			
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の方が楽しみながら食事ができるよう、季節に応じて野菜の下処理(フキや筍の皮むき等)やお好み焼きを焼いたり、おはぎや柏餅作りなど利用者の方と一緒に、昔を思い出しながら楽しませている。	法人管理栄養士に相談し利用者の嗜好に配慮しながら献立を立て、地域のスーパーや道の駅で新鮮な食材を購入して職員手作りの料理を提供している。利用者の残存能力に応じて野菜の下拵えやテーブル拭き、後片付け等と一緒にやっている。柏餅やおはぎ、お好み焼きを作ったり、道の駅でソフトクリームを買って食べたり、食べる事を楽しめるよう支援している。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設されている特養の管理栄養士から助言を踏まえ献立を考え、栄養のバランス・水分補給など個々の状態に合わせて提供している。夏の時期には特に水分補給に気を配り、口当たりの良いお茶ゼリー等も提供している。また咽やすい方は管理栄養士に相談し、水分にロミを付けて提供している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の習慣を踏まえ、毎食後の歯磨き・義歯洗浄・うがいの声掛け・見守り・確認を行っている。週1回義歯を預かり入れ歯洗浄剤による除去を行っている。また歯や歯茎に不具合や痛み等の訴えがある時は、歯科受診も行っている。			
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的にトイレ誘導を行い排泄のパターンを知るように努めている。トイレの使用時やポータブルトイレの使用時には、カーテンや扉を閉めてプライバシーに配慮している。紙パンツやパットも1人1人の尿量に合わせた物を、各担当職員が購入している。	職員は利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、タイミングを見ながら声掛けや誘導を行い、利用者が重度化しても出来るだけ、トイレで排泄できるよう支援している。夜間は利用者の希望や体調に配慮して、トイレ誘導やポータブルトイレ、オムツ、リハビリパンツ、パット等を活用する等、一人ひとりに合わせて柔軟に対応している。		
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表を作成し排便の有無を把握して、便秘の方には水分補給の声掛け、牛乳、ヤクルトを飲んで貰っている。食事野菜がしっかり摂れる献立になっている。頑固な便秘の方には、主治医に相談し下剤を服用して貰い排便を促している。また排便表も作成し、職員全員が把握できるようにしている。			
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調や本人の意思を尊重し入浴したくない日は次の日に入浴して貰っている。季節によってはゆず湯など変わり湯を実施し楽しんで頂いている。女性の方で男性職員では恥ずかしいと言われる場合は、女性職員と交代してご本人の気持ちを大切にしている。	利用者の希望や体調に配慮しながら週3回の入浴支援に取り組んでいる。拒否気味の方に対しては、お風呂のワードを出さずに声かけしたり、同性介助を希望される方には柔軟に対応している。柚子湯など季節を感じられるように工夫する等、入浴を楽しめるよう支援している。		
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中軽運動を促し、日によってドライブや散歩を行い日光浴を行い安眠を促している。昼食後には身体を休める為に昼寝の声掛けを行っている。寝られない方には、ご本人の自由に過ごして貰っている。夜間は眠くなるまで自由に過ごして頂き、自分のペースで休まれている。また、夕食後から寝られる前までに水分補給も行っている。			
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の一覧表を作成して、何を服用されているかすぐに確認できるようにしている。誤薬を防ぐ為に職員2名で確認し、ご本人にも名前と日にち、時間を声に出して確認し服薬介助行っている。また確実に飲まれる迄目視する。薬の量が多く飲みにくい方は服薬ゼリーを使用して、安全に服用される様支援している。状態の変化が見られたら、主治医や看護師に報告し、訪問看護にも相談している。			
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事前後のテーブル拭き、洗濯物干し、洗濯物たたみ、お膳拭き、買い物への付き添い、料理の下ごしらえ、季節のおやつ作り、ゴミ捨て、畑の水やりなど、各利用者に合った役割を持って頂き、生活に張り合いが持てるように支援している。畑での収穫作業も参加されている。	利用者の特技や能力を生かして、買い物への付き添い、テーブル拭きや洗濯物たたみ、料理作りやおやつ作り、季節ごとの作品作り、俳句の投稿、畑の水やりや収穫作業等に取り組み、利用者の楽しみ事や活躍できる場面づくりを支援し、利用者の生きがいに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ規制も5類となり外出の出来る様になってきた為、家族との外出も希望されて外食・買い物もされている方も居られる。また日頃の外出も御利用者の方に行き先を尋ねて出掛けたり、季節を感じて頂けるような所へも出掛けている。	新型コロナ5類移行に伴い、コロナ状況を判断しながら、家族と一緒に外食や買い物に出かけたり、海へのドライブや花見等に出かけている。たくさん出かけることが当ホームの売りであり、出来るだけ外に出て季節を感じてもらえるよう支援している。散歩や玄関前にベンチを出して日向ぼっこを楽しみ、利用者の気分転換を図っている。		
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お1人の利用者の方が財布を所持されていて、ご家族の方と受診等で出掛けられた時に好きなものを購入されたり、廊下に掲示する俳句を書くのに使われる筆ペンの購入、手紙を書かれた時の切手購入など職員が代行し、ご自分の手持ちのお金で支払われている。			
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯・スマホ・タブレットを所持されている利用者へ、取り扱い・操作を説明したり、電話を掛ける支援も行っている。また家族や親戚、知人の方から荷物が届いた時には連絡し、直接話をしてもらっている。手紙のやり取りをされている方には、切手の購入や、投函の支援も行っている。			
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険を防止し、廊下や居室、食堂、浴室、トイレ等、利用者が安全に行動出来るよう配慮している。また、室内の温度や湿度、換気にも気を配っている。廊下や玄関の壁面には、利用者の方々が作られた塗り絵や貼り絵等展示し、季節を感じられている。また、居室には大きな窓があり、自然の景色や畑の野菜の成長を眺めたり、鳥のさえずりも聞かれ穏やかに過ごされている。	ホーム内は全館バリアフリーを設置し、音や照明、温度や湿度、換気に注意して、利用者がホームの中で安心して過ごせる共用空間である。利用者や職員が制作した塗り絵や貼り絵を掲示し、窓からは自然の景色や畑の野菜の成長を眺めることができ、季節を感じながら生活が楽しめるよう支援している。		
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室内では自由に過ごせるようにご本人の思いを尊重し、無理な強制や指示は行わず、のびのびと快適な時間が過ごせるよう努めている。利用者同士では共にレクリエーション活動、ドライブ、季節の行事等で楽しんで頂いている。			
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人が落ち着いて過ごせるよう室内のレイアウトを行い、自宅から持参された布団や毛布が使われたり、御位牌や写真を飾って、居心地の良いお部屋になるよう工夫している。また、夏の時期には窓際にゴーヤなどの野菜を植えて、日除け対策を兼ねて、成長も楽しんで眺めて居られる。	利用者の馴染みの家具や寝具、家族の写真や位牌、身の回りの品々を持ち込んでもらい、馴染みの物に囲まれて、利用者が安心して穏やかに過ごせるように配慮している。位牌を持ってこられている利用者が、毎朝水やご飯を供える習慣を大切に支援している。また、窓際に日除けを兼ねてゴーヤなどの野菜を植えている。		
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の生活に合わせて、居室や共同で使っているスペースを分けて、車椅子、歩行器を活用し、能力に合った移動がスムーズに行えるよう障害物の有無を確認している。また、トイレ、浴室、廊下に手すりを設置し、安全で安心な生活、行動が出来る様支援している。居室には、個々の能力に合わせて、サイドレールやレンタルで固定型手すりを設置し、家具の配置も工夫し、転倒防止の為センサーを使用している方も居られる。			